

平成25年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）

■事業の位置づけ（基本事項）					整理番号		3	—	1	—	5
事務事業名		位置情報通知システム整備事業				担当課係		消防課			
総合計画上の位置付け	大項目	2. 「安心」のまちづくり				記入担当者					
	中項目	①災害被害の減少				内線等					
	小項目	4. 正確な防災・気象情報の収集・提供と的確な対応策の提供				E-mail					
事業の実施主体		市（委託・補助事業含む）				事業区分		臨時事業			
事業予算費目	款	9	消防費			項	1	消防費			
	目	3	消防施設費			事業	4	位置情報通知システム整備事業			
開始年度		平成 25	年度	根拠法令・要綱等 消防組織法							

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 小松島市管内の携帯電話及びIP電話から119番通報する全市民	
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 旅行者等の地理不案内者からの119番通報時の早期の場所の確定	
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 簡易型位置情報通知システムを導入することにより、携帯電話及びIP電話からの119番入電時に、パソコンの地図上に通報場所が表示され、通報場所又は発生場所の特定を瞬時に行え、救急車、消防車等の早期の出動が可能となる。	
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 現状は、119番通報受信時には通信員が入電内容（種別、場所、内容等）の聞き取りを行いながら、他の職員が地図等で場所の確認を行っているが、携帯電話の普及した現在では通行人等の地理不案内者からの通報も増え、発生場所の特定に苦慮しているところである。	

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名				指標の説明			指標化できない成果
	簡易型位置情報通知システム				計画数に対する完了数			
	単位		H24	H25	H26	H27	将来目標 (年度：平成)	
	位置情報通知システム（数）	目 標		1			平成25年度	
		実 績		1				
		達成度		100.0%				

活動実績・参考となる指標	指標名	単位		H24	H25	H26	H27	指標の説明
	簡易型位置情報通知システム	一式	計画		1			
			実績		1			

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		24年度決算	25年度決算	26年度決算	25年度予算
全体コスト（円）	A 直接事業費	0	2,079,941	0	2,787,000
	財源内訳				
	国県支出金				
	地方債				
	利用者負担				
	一般財源		2,079,941		
	B 人件費 ①×②	0	725,626	0	
	職員平均人件費①		7,256,264		
	従事した割合②人		0.10		
A + B		0	2,805,567	0	
単位コスト	活動指標の説明	計画に対する実績	計画に対する実績		備考
	活動指標1単位当たりコスト		2,805,567		平成24年4月1日現在 人口40,876人
	市民一人あたりのコスト	0	69		平成25年4月1日現在 人口40,733人

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測)
事業に対する住民の意見	隣接消防本部の徳島市、阿南市、鳴門市では消防庁舎内に通信指令室があり、既に通信指令台にこのシステムを内蔵し運用している状況である。
	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など)
	平成23年12月議会において議員より「携帯電話、IP電話からの119番緊急通報に係る位置情報システム」を導入する意向はあるのかという質疑がある。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果（該当にチェック）	判断理由・評価コメント（具体的に記入すること）
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い <input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある <input type="radio"/> ③ 必要性が低い <input type="radio"/> ④ 必要性がない	迅速な出動体制の構築からこのシステムは必要である。
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない <input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施 <input type="radio"/> ③ 必然性が低い <input type="radio"/> ④ 必然性がない	消防に係る通信業務においても市町村が責務を負っており、時代に即した機器を導入していかなければならない。
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である <input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的 <input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的 <input type="radio"/> ④ 非効率的	このシステムについては、新発信地表示システム、位置情報通知システム統合型、本市が導入した簡易型等、様々な機種があるが、当市の地域性、環境面も考慮し最も費用が安価なシステムを導入することができた。
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い <input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある <input type="radio"/> ③ 緊急性が低い <input type="radio"/> ④ 緊急性はない	このシステムは、出動体制の根幹の部分であり緊急性を要する。
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている <input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている <input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない <input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	迅速な出動、出動場所の特定による市民への安心感等、成果は上がっている。
今後の課題	将来的には、津波等が浸水しない場所へ通信指令室を移転し消防業務が継続できるように柔軟に対応する必要がある。	

■一次評価（評価点は目安とし、総合的な評価をすること）

評価	評価項目	評価点	判定	理由
2	1 拡 充 す る	80 点 以上	2	迅速な出動体制の強化に繋がったが、このシステムを含めた通信指令機器が庁舎、通信室1階にあり、津波等の浸水時には、使用不能になる恐れがあり、今後、設置場所等の検討が必要である。
	2 現状のまま継続する	60～79点		
	3 改善・効率化し継続	50～59点		
	4 見直しの上縮小する	40～49点		
	5 終期設定し終了	30～39点		
	6 休 止	20～29点		
	7 廃 止	19点以下		

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容（方向性・対象・手段等について記述）】

■二次評価（所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること）

評価	評価項目	判定説明
2	1 拡 充 す る 2 現状のまま継続する 3 改善・効率化し継続 4 見直しの上縮小する 5 終期設定し終了 6 休 止 7 廃 止	簡易型位置情報通知システムを計画的に導入することができ、消防、救急出動体制を強化することができた。今後については、通信室にある機器が有効に使用できる通信員の養成が必要であり、機器の設置場所の移転も含め、計画的に整備していかなければならない。